



THE
WAKASA
WAN
ENERGY
RESEARCH
CENTER

(財)若狭湾エネルギー研究センター

平成22年2月16日発行

エネ研 ニュース

22号

<http://www.werc.or.jp/>

福井での APEC エネルギー大臣会合開催会議に向けて

主催: 福井県立大学、福井県、エネ研

エネルギーに関する特別シンポジウムを開催

日時: 2010年2月3日(水) 13:30~16:45
会場: 福井県国際交流会館 地下多目的ホール

「原子力・エネルギーの可能性と地域社会の進む道」と題して行ったこのシンポジウムは、今年6月に福井県内で開催される APEC エネルギー大臣会合に合わせ、福井県における環境・エネルギー技術が地域のみならず日本や世界に対してその役割を果たしていくため、講演やディスカッションを行ったもので、約340名が参加し、今後のあるべき姿、将来像を展望しました。



基調講演: 小林紘二郎
(当センター所長、大阪大学名誉教授)



記念講演: 小宮山 宏氏 (三菱総合研究所理事長、前東京大学総長)

記念講演で前東京大学総長の小宮山 宏氏は、2050年までの具体的な目標としての、エネルギー効率を3倍に増加、再生可能エネルギーを2倍に増加、物質の循環システムの構築の同時達成ができれば、世界が持続可能な社会となるという「ビジョン2050」を提唱しました。この実現のために各家庭や市民が率先して省エネ等の対策に取り組んでいこうと力説されました。

基調講演でエネ研の小林所長は、「原子力技術の活用と産業振興」と題して、エネ研が進めている研究開発を含めて、原子力やエネルギーに関連した技術開発には有望で役に立つ技術が多くあることを、紹介しました。

後半のパネルディスカッションでは、江守氏 (江守商事代表取締役社長) から、中国などの原子力建設が確実視される中、原子力発電の技術を新規商品開発等に活かすなどで、企業側の努力をしていくとの意気込みが紹介されました。

岡氏 (福井県立大学経済学部教授) からは、福井県の GDP のうち原子力関連によるものが10%を越えているとの紹介があり、原子力のリスクの評価は、これまでは0であるという見方もできるが、今後は密接な地球温暖化対策の動向や影響もみろべきとの意見も紹介されました。

福井県では、多くの有識者の意見なども参考にしながら、将来(およそ10年後)を見通した新しい政策推進のためのビジョンの策定を行っています。



コーディネーター: 南保勝氏
(福井県立大学地域経済研究所教授)



パネリストのみなさん。左: 江守清隆氏 (江守商事代表取締役社長) 右: 岡敏弘氏 (福井県立大学経済学部教授)



Asia-Pacific
Economic Cooperation

成功させよう 2010年日本 APEC (E11パック)



エネ研発の技術が、実用レベルに到達！！

2月3日にプレス発表



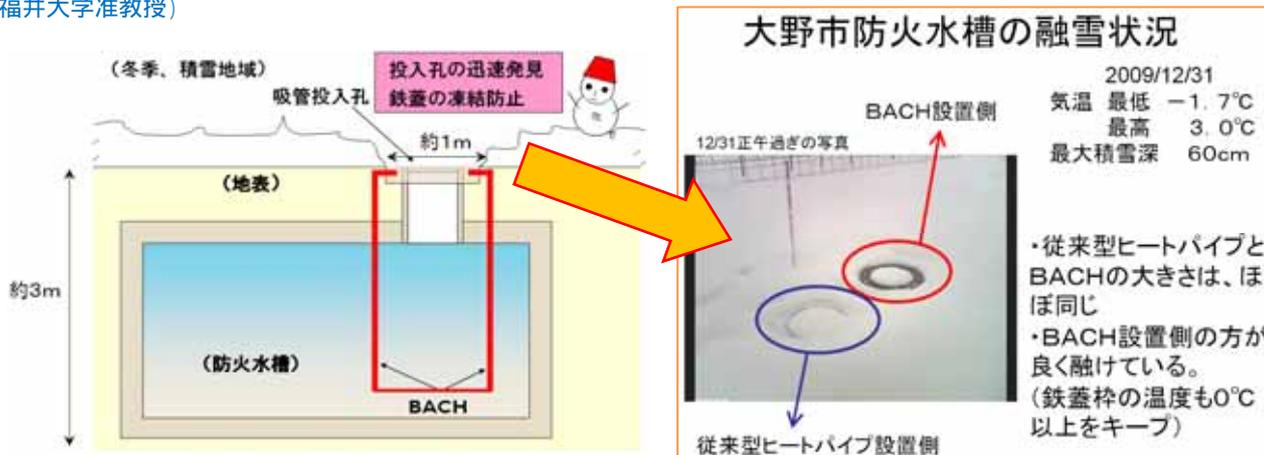
本開発の中心として活躍している永井二郎 (福井大学准教授)

エネ研発 新型ヒートパイプ「BACH」が 防火水槽ふたの融雪システム に有用であることを開発・実証

エネ研が特許出願中の「気泡駆動型無動力循環式ヒートパイプ(BACH)」の具体的な活用目途がついたため、発表したもので、新聞やテレビなどのメディアでとりあげていただきました。

(原理などは、ホームページの当ニュースバックナンバーや、研究報告集などをご覧ください)

今回のシステムは防火水槽にBACHを組み込んだもので、下の写真のように、鉄ふたの周辺が温められ、降雪時にも位置をすばやく見つけることができます。今回の開発に参加した責任企業のホクコン(福井市)などは2010年度冬の商品化を目指しています。



平成21年度 敦賀「原子力」夏の大学 海外原子力研修(フランス)

平成19年度より毎年開催。(今年度で3回目)



車窓から見える原子力発電所



「平成21年度 敦賀「原子力」夏の大学」の参加者38名の中から選抜された7名の学生が、原子力に関する国際的な見識と視野を高めるため、平成21年12月7日(月)から11日(金)まで原子力先進国であるフランスで海外研修を実施しました。研修先はフランス原子力庁(CEA)の教育機関「INSTN」、高速増殖原型炉「Phenix」、最新のMOX燃料製造施設「MELOX」などです。



炉物理の講義



福井団長(福井大学教授、後列中央)と訪仏したメンバー。「INSTN」前にて。

学生(福井大学3名、県外大学4名)と同行した教員等(3名)は事前研修会でフランス語も学習して研修に臨みました。当地では英語で講義や説明が行われ、英語の大切さを痛感。教員たちからは、学生のレベルに合わせてしかも時間内に収まるように計画された講義や実習に接し、実に内容の濃い研修であるとの評価がありました。



PWR 運転シミュレーションの講義



地下鉄やレストランでは、持ちうる限りのフランス語を駆使し、やっとのことで料理や乗車券をゲット。